

「上腸間膜動脈症候群発症における上腸間膜動脈の右方偏位との関連の検討：症例対照研究」について

上腸間膜動脈（SMA）症候群は、十二指腸水平脚が SMA と腹部大動脈とに挟まれ、通過障害を起こすことで発症する疾患です^[1]。SMA は腹部大動脈から分岐し、小腸や大腸に栄養や酸素を送る血管ですが、過去の研究では、この分岐部の角度（SMA 分岐角）が小さくなるのが、SMA 症候群の発症に関与するとされています^[2]。この知見は一般診療においても広く応用されていますが、画像診断学的に他の所見について検討した報告は少なく、SMA 症候群の発症機序について、十分に明らかになっていないとは言えません。

この度、研究責任者らは当院での診療経験から、SMA 症候群の発症に SMA の右方偏位が関与している可能性を考えました。当疾患の予防、診断そして治療技術の進歩のため、当院の腹部 CT 画像を中心とした既存データをもとに、この仮説について検証することと致しました。この研究では、これまでに行われた検査や治療内容のデータを使いますので、患者さんの負担はありません。また、今後の治療方針にも影響しません。

1. Ahmed AR, Taylor I. Superior mesenteric artery syndrome. *Postgrad Med J* 73:776-8, 1997.
2. Ozkurt H, Cenker MM, Bas N, et al. Measurement of the distance and angle between the aorta and superior mesenteric artery: normal values in different BMI categories. *Surg Radiol Anat* 29:595-9, 2007

●研究対象者

2008 年 4 月から 2018 年 3 月までに、恵寿総合病院で「上腸間膜動脈症候群」と診断された患者さんと、2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日の間に、当院において腹部 CT を撮影された患者さん。そのうち、同日ないし翌日に入院をされていた患者さんのみを対象とします。

●研究の目的について

上腸間膜動脈の右方偏位は上腸間膜動脈症候群の発症に関与している、という仮説を検証します。

●研究の方法について

研究対象の患者さんについて、年齢、性別、身長、体重、現病歴、既往歴、過去の手術歴と、腹部超音波検査、腹部 CT 検査の所見、そして治療内容や予後に関する情報を使います。患者さんのお名前や生年月日などの個人情報情報を削除した後に、必要なデータをまとめ、研究を行います。集めたデータは学会や論文などに発表されることがありますが、個人情報が公表されることはありません。

●予想される利益と不利益について

この研究はデータの調査だけを行う研究であり、患者さんに直接の利益はありません。

予測される不利益として、個人情報の流出の可能性が考えられますが、研究対象となる患者さんの秘密保護に十分配慮し、個人を識別することができる情報の持ち出しを行わないことで、その危険性を最小限に抑えます。

対象となる患者さんへの費用の負担や、研究のためだけの新たな通院はありません。

●プライバシーの保護について

この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがありますが、個人情報などが公表されることは一切ありません。

●研究責任者

宮田 潤

大阪大学大学院 医学系研究科 社会医学講座 公衆衛生学

恵寿総合病院 家族みんなの医療センター 家庭医療科 医師

●研究への不参加の自由について

情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承頂けない場合には、研究対象としませんので、恵寿総合病院総合受付患者相談窓口までお申し出下さい。

●個人情報の開示について

個人情報の開示の手続きについては、恵寿総合病院総合受付患者相談窓口までお申し出下さい。

●研究計画書など資料の入手について

この研究の研究計画書などの資料をご覧になりたい場合には、恵寿総合病院総合受付患者相談窓口にお問い合わせ下されば、対応致します。

●研究に関する窓口

この研究の内容について、分からない言葉や、疑問、質問、ご自身がこの研究の対象になるかなど、さらに詳細な情報をお知りになりたいときには、遠慮せずいつでもお尋ね下さい。

恵寿総合病院 本館 1階総合受付 患者相談窓口

〒926-8605 石川県七尾市富岡町 94 番地

0767-52-2300